

新・本店ビル計画のコンセプトについて

東京海上ホールディングス株式会社(取締役社長 グループ CEO 小宮暁)および東京海上日動火災保険株式会社(取締役社長 広瀬 伸一 以下「東京海上日動」)は、現在の東京海上日動ビル本館および新館を一体で建て替えて建設する新・本店ビル計画のコンセプトをまとめました(※)。このコンセプトは、東京海上グループのサステナビリティ戦略に則ってまとめたものです。

新・本店ビルは、ビジネス・歴史・文化が共存する街「丸の内」の美しい街並みに調和し、日本の玄関口である東京駅と緑豊かな皇居外苑を結ぶシンボリックな場所に相応しい、洗練された気品のあるデザインをめざします。

機能・性能面では、最高レベルの災害対応力と、新しい働き方や多様なニーズに対応できる柔軟性を備えるとともに、国産木材の積極的な利用や最高レベルの環境性能の追求など、時代を先取した取り組みを通じて、安心・安全でサステナブルな社会の実現や地域社会の発展に貢献してまいります。

(※)東京海上日動ビルを建て替える方針である旨は、2021年3月25日にニュースリリースを行っております。

URL : https://www.tokiomarine-nichido.co.jp/company/release/pdf/210325_01.pdf

1. 新・本店ビル計画のコンセプト

① 最高レベルの災害対応力

- 免震構造の採用、浸水対策、非常用発電機の設置など、様々な災害対策を講じることで、より高い事業継続性を実現し、お客様や地域社会の”いざ”に備えます。
- エントランスホールなど、災害時でも安全に帰宅困難者を収容可能な屋内スペースを広く設け、地域防災に貢献します。

② 国産木材の積極的な利用

- 木材は二酸化炭素の貯蔵機能を持ち、再生可能であることなど、脱炭素社会に適した「地球環境にやさしい」建築資材であり、新・本店ビルの計画に当たっては、当初から木材の積極的な利用を検討してまいりました。
- 新・本店ビル計画においては、柱や床などの構造材を含め、これまで他に例のないレベルで国産木材を利用し、世界最大規模の木造ハイブリッド構造による超高層オフィスビルをめざします。
- 木材には、戦後植林され利用期を迎えた国産木材を用いることで、造林、伐採、利用、再造林のサイクルを需要者として支え、山林の保全や水源の涵養、地方経済の活性化など、循環型社会の実現に貢献します。

③ 最高レベルの環境性能の追求

- 木材の利用により建築時の二酸化炭素排出量を削減することに加え、高効率の設備や地域冷暖房を導入することによって、省エネルギーの推進と、ビル使用に伴う二酸化炭素排出量の抑制に取り組みます。
- 電力については、100%再生可能エネルギーの導入をめざします。
- 屋上などを大規模に緑化し、生物多様性の保全とヒートアイランド現象の緩和を図ります。また、1階フロアなどに地域の皆様の憩いの場となるパブリックスペースを設け、都市空間の環境改善を図ります。
- 雨水の雑用水利用や水の循環システムの導入などを通じて、水資源の保全を図ります。
- 国際的なグリーンビルディングの認証プログラムである LEED において、最高レベルである Platinum の取得をめざします。

④ 新しい働き方や多様なニーズに対応できる柔軟性

- 現在の本館および新館を一体で建て替えることにより、フレキシビリティに富んだ広いフロア面積を確保し、多様な働き方を選択できるオフィス空間の実現をめざします。
- 各フロアを内階段で繋ぐことで、多様な組織の垣根を超えたコミュニケーションを活発化させ、お客様への付加価値提供に努めてまいります。
- 吹抜けの設置による自然採光への配慮、屋内の緑化、医療施設等の設置を検討し、従業員が健康で高いパフォーマンスを発揮できる環境を実現し、健康経営の更なる推進に繋げてまいります。
- 障がいの有無等にかかわらず多様な人々が利用しやすいユニバーサルデザインの考え方を反映するよう取り組みます。

2. 設計

- 設計については、1998年にプリツカー賞を受賞した世界的な建築家である Renzo Piano 氏が主宰する Renzo Piano Building Workshop SAS(注 1)、および株式会社三菱地所設計(注 2)に委託しており、両社の協力を得て、国産木材の利用を含む多くのチャレンジングな取り組みを推進しています。
- 現在の本店である東京海上日動ビル本館(1974年竣工・設計者:前川國男建築設計事務所)については、その歴史的価値を明らかにし後世に伝えるために、有識者の協力を得ながら、記録調査と継承方法の検討を行います。

注 1: Renzo Piano 氏が 1981 年に設立し、イタリア、フランスにオフィスを構える建築設計事務所。ロンドンのザ・シャードやニューヨークのニューヨーク・タイムズ・ビル、ホイットニー美術館など、これまで世界中で 140 以上のプロジェクトを手掛けており、日本においても関西国際空港ターミナルビルなどの実績がある。

注 2: 1890 年に三菱社が設置した丸の内建築所をルーツとする三菱地所グループの建築設計事務所。丸の内ビルディングなど、丸の内エリアの物件を数多く手掛ける。

3. 今後のスケジュール

- 2022 年 10 月の解体着工、2028 年度の新・本店ビル竣工をめざしています。

(計画概要)

所在地	東京都千代田区丸の内一丁目2-1 (住居表示)
主要用途	事務所 (本店ビル)、駐車場等
建物所有者	東京海上日動
敷地面積	約 10,147 m ²
規模	地下3階、地上19階
延床面積	約 125,000 m ²
建物高さ	約 100m

東京海上グループは、これからも、ステークホルダーの皆様とともに、災害レジリエンスの向上、健やかで心豊かな生活の支援、気候変動対策の推進、D&Iの推進・浸透に繋がる取り組みを通じて、SDGsの達成に貢献してまいります。



(注) 上記に記載している内容は、いずれも本ニュースリリースを発表した時点のものであり、今後の検討によって変更する場合があります。

以 上